

ほむ・ほむ通信

No. 14-15
[合併号]

グループ ほむ・ほむ

コープとうきょう

「ひろがるユニセフカーニバルの輪」



Partnership

生協のユニセフ活動・13

今回は、コープとうきょうが毎年12月に開催しているユニセフカーニバルについてご紹介します。理事の上田尚美さん、河野恵美子さんにお話を伺いました。

約73万人の組合員をかかえるコープとうきょうでは、誰もが気軽に参加できる身近なユニセフ活動として、募金に取り組んでいます。コープとうきょう発足当時から行っており、現在、店舗では募金箱を設置し、共同購入ではOCRに記入して募金ができるようになっています。

「募金だけでなく、もっと広くユニセフや国際友好について知ってもらえれば...と始めたのが、ユニセフカーニバルです」と河野さん。

昨年12月、7回目を迎えたユニセフカーニバルでは、コープとうきょうのビルを利用して、地下1階はコンサート、2階はショップ、展示など、3階は多国籍の自慢料理が食べられる屋台村という組み立てで行われました。

ショップでは、ユニセフグッズや海外協力団体の織物、手作りグッズを販売。子どもコーナーも設けたお祭りのな雰囲気好評で、子どももたくさん訪れ、約200名の人々が参加しました。コンサートには組合員の和太鼓や大学生のバンドが出演し、「バンドが人を連れてきてくれて、

地域の生協活動に参加する人とはまた違うタイプの人々が来てくれました。普段、生協のおばさんは何をしているの、と思っている若い人たちとも、年齢を超えて交流できたのがよかったですね」と河野さん。参加費500円がユニセフ募金となり、出店者からも自主的に売上金の一部がユニセフに寄付されました。

「9月から組合員にいろいろな形での参加を呼びかけました。組み立ては大変ですけど、看板なども手作りして、お祭りを一緒に楽しみました」と上田さん。

コープとうきょうでは、江東区のかけはしコンサートや江戸川区の『トットちゃんとトットちゃんたち』の朗読劇など、各地域の委員会でもユニセフ活動が行われています。ユニセフカーニバルにはそうした委員会も参加し、情報交換、情報発信の場ともなっています。また、日野市のユニセフ・平和カーニバルに参加したバンドが参加したり、我が町でもやってみようと地域に持ち帰ってイベントを開催したりと、ユニセフカーニバルの輪が広がっています。

<尾澤>

この記事に関するお問い合わせは...

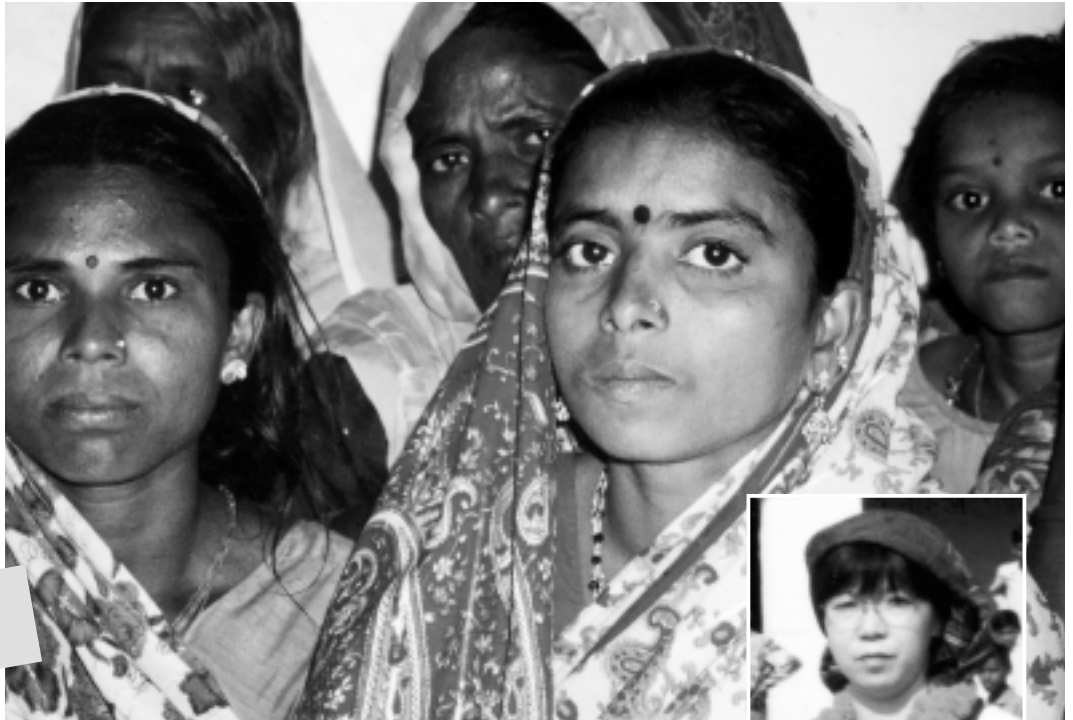
コープとうきょう 平和・国際友好委員会 担当/上田尚美さん
TEL 03-3382-5665 / FAX 03-5385-6035

特集

UNICEF
STUDY
TOUR

昨年11月のインド・スタディツアーに、コープかながわから理事の谷杉佐奈美さんが参加。現地での交流と事業の視察を行いましたので、報告いたします。

インド



谷杉 佐奈美さん

子どもと女性の権利を守るために

女性が変われば...

自立のための支援

プロジェクトは、貧しい女性の自立能力を高め、女性が社会参加を進めることを応援します。プロジェクトの目的は、子どもの就学率向上、母子の保健と栄養の改善、家族の生活改善です。具体的には、まず女性5人単位のグループを作ります。これをコミュニティを組織するための基礎とし、その中で保健や栄養のことを学んだり、識字学習をしたり、技術訓練を受けたりします。

グループの最も重要な活動は、“貯蓄と融資”です。メンバーは毎週わずかなお金を積み立て、それをグループの貯蓄とし、メンバー間で互助的に融資を行います。そ

れを元手にヤギやアヒルの飼育を始めたり、腕輪などの店を開いたりして収入向上の活動を行い、その収入を融資の返済、生活改善、貯蓄にあてていきます。

力の弱い女性がみんなで助けあうことにより、少しずつですが生活をよくし、さまざまな場に参加したり、自分の意見を言うことができるようになりました。こうした女性のグループは、ビハール州では、3年前の4県から9県へ、グループ数も976(1998年)から2,026(2000年)に広がり、参加した女性も40,520人になりました。

本当の支援とは...

その国の状況、ペースにあわせて

インドで見たユニセフ活動は、「なぜ子どもや女性の権利が守られないのか」の「なぜ」の部分深く掘り下げて支援をしていました。子どもと女性の権利を守るため、コミュニティへの参加という、一番困難であるけれど確実に継続する方法を、行政・NGOと協力しあい進める姿は、支援するということの意味を教えてくれたように思います。

徐々にですが自立していくインドの女性たち、その可能性をかいま見ました。そしてそれを支援するさまざまな人々...、遠く日本の地からユニセフに募金をしていているコープの組合員も、またそのひとりです。人間の力の大きさを実感したツアーでした。



～ コープかながわ 谷杉佐奈美さんに聞きました ～

コープかながわでは、ほぼ毎年理事さんがスタディツアーに参加しており、すでに8人の経験者がいるそうです。

インドから帰国した谷杉さんは、今年2月3日に、200人規模の「地球はみんなともだちフェスタ」というイベントで、スライドを交えた報告を実施しました。インド地震の直後ということもあり関心を集め、会場で呼びかけた緊急募金にも、多くの協力を得ることができたそうです。

また、10～30人という規模の集まりでも3回程度話をしました。これは、報告会開催というよりは、集まりの中のプログラムとして実施されたそうです。

「要請があれば、話にいきます」と谷杉さん。この夏には2つの報告会を予定しています。1つは市民生協やまなしからの依頼だそうです。生協間の交流がすてきなあとに思いました。もう1つは、この夏神奈川県で開催される予定の「ユニセフのつどい」です。詳細はまだ未定ですが、その中で報告の機会をつくれたらと思っているそうです。

今回のインドのほか、カンボジア、ネパール、ベトナムと、さまざまな国のスタディツアー参加者がいらっしやいます。1人でも多くの人にユニセフの活動を伝えていただけたら...と期待しています。 <山本>



失われている子ども時代

パटना県にあるストリートチルドレンの施設を訪問しました。市内の公衆電話から24時間無料で電話することができ、子どもの希望があれば来ることできます。

施設にいるのは、駅周辺で生活している子ども、宿泊センターから来ているこどもなど、さまざま。帰る家がない、家はあるけれど帰れない、帰りたくないという子どもたちが、パटना駅周辺には3,000人くらいいるそうです。駅周辺で生活している子どもたちは、食べるために荷物運びや掃除、店番などをしてわずかなお金を稼いでいます。

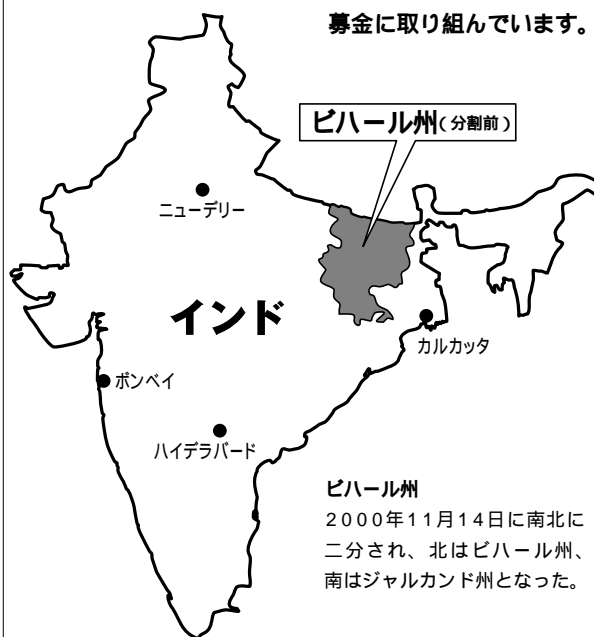
家族のある子どもはできる限り会わせるようにしますが、それでも帰れない事情のある場合(虐待や重労働従事、食べられないなど)は、トレーニングやカウンセリングを受けさせるなどして、帰れるようにしています。しかし、子どもたちを強制的に集めたり、親元に帰してしまうことでは解決できない生活の背景があることを感じました。

この記事に関するお問い合わせは...

コープかながわ 組合員活動推進室 担当/熊谷俊彦さん
TEL 045-471-5615 / FAX 045-472-1182

INDIA

インドは人口約10億人、国土面積約328万7,000平方キロメートル。いずれも日本の約8倍。5歳未満の子どもの死亡率は高く、低体重の子どもが非常に多い国です。そして約6割の女性は読み書きができません。女性は地位が低く、男性に従うものという考え方が根強くあり、現在の日本からは想像もつかない男女の格差が残っています。特に北東部に位置するビハール州では、住民の半数以上が貧困ライン(生活費が1日1ドル)以下にある状況です。家族、コミュニティ、社会全体に女性と子どもに対する暴力が広がっており、ジェンダーの偏見も深く根を下ろし、インドの中でも特に女性と子どもの状況が厳しい地域です。日本の生協(東北6県と北海道)は、ビハール州の女性を支援する指定募金に取り組んでいます。



ジェンダー...社会的・文化的に形成された性別のこと。生物学的な性別であるセックスとは区別して用いられます。

ご協力ありがとうございました

緊急募金

2001年1月13日に発生したエルサルバドルでの大地震に引き続き、26日はインド西部で死者2万人を超える大地震に襲われました。これに対してユニセフが呼びかけた緊急募金に、全国の生活協同組合の皆様よりたくさんのご協力をいただきました。2001年5月末日までに、エルサルバドル地震に836万60円、インド地震に4,521万5,568円のご送金がありました。ご協力ありがとうございました。

インド地震

Q 現地の被害状況は？

A 死者2万人以上、負傷者約17万人、倒壊家屋33万戸、損壊家屋は75万戸にもなります。15歳未満の子ども500万人以上が、家や家族を失うなど、ひどい被害を受けました。病院や通学する学校が倒壊するなど、心理面での影響が深刻になっています。震災の経済的損失は、46億ドル(約5,520億円)に達します。

Q ユニセフ募金でどんな活動が行われていますか？

A グジャラート州におけるユニセフの緊急復興援助は、教育、心理サポート、家族の生存確認、保健衛生の分野で実施され、援助規模は2400米万ドルを超えました。心に傷を負った子どもたちの心理サポートを行うセンター300か所を設置し、教材・教具の提供と、教員に対する子どもの心理に関する専門的訓練を始めています。

援助物資の提供

- ・給水タンク 35基 ・浄水剤 100万錠
- ・家庭用飲料水ケース ・給水ポンプ
- ・家庭用生活必需品セット 10万家族分
- ・緊急医療用品 39セット(1万人の3か月分)
- ・医薬品セット 70万ドル相当
- ・経口補水塩 100万袋(下痢による脱水症を防ぐため)
- ・はしかワクチン 40万人分
- ・ワクチン保冷用冷蔵庫、発電機
- ・毛布 7万5,000枚
- ・簡易学校、簡易保健センター用大型テント 700セット



エルサルバドル地震

Q 現地の被害状況は？

A 死者約1,200人、負傷者約8,500人、倒壊家屋15万戸、損壊家屋18万戸にもなります。

Q ユニセフ募金でどんな活動が行われていますか？

A 子ども15万人分の基礎医薬品セットが配布され、国内で一斉に予防接種を実施する「全国予防接種デー」が行われました。また、今後も接種を多くできるよう、注射器2万5,000本が提供されました。

主な支援活動

- ・給水タンク(1万、5,000、1,000リットル)20基を避難キャンプに設置。
- ・サンビセント地区の病院に、1万リットルの給水タンク2基を設置
- ・家庭用飲料水ケース1,100個を配布
- ・給水トラック36台をレンタル
- ・仮設トイレを1,000か所に設置

また、教員と子ども向けの教材・教具のセットの提供を進め、ノート、鉛筆、定規の入った「箱の中の学校」648セットが、13地区142の小学校に配られます。心に傷を負った子どものための心理サポートとして、3,550人の教員に専門知識に関する訓練を実施しました。

< 藤森 >



ユニセフこんなこと知りたい 生協のユニセフ協力の始まり

「命の尊厳を守る」という共通目標に向かって

日本の生協がユニセフ支援活動に取り組み始めてから、今年で22年になります。きっかけは、1979年の国際児童年。協同組合の国際機関であるICA(国際協同組合同盟)に、ユニセフからアピールがありました。当時、開発途上国の子どもたちの一番の仕事は、「水くみ」でした。これは大変な重労働です。ICAは、「子どもたちにバケツ1杯の水を贈ろう」と提唱。ICAに加盟する日本生協連も、このキャンペーンに参加しました。そして1984年の日本生協連通常総会で、ユニセフへの支援協力を、全国の会員生協の取り組みとして推進することを決めました。

それ以来、「我が子への愛を世界の子どもたちに」「世界のお母さんが読み書きができて子どもの命が守られるよう」など、支援の歴史を重ねてきました。1995年からは「アジアの子どもと女性の自立」を支援する「指定募金」がスタートし、ベトナム・インド(ビハール州)・ラオス

への指定募金に取り組む生協では、組合員がユニセフスタディツアーに参加したり、地域で交流会を開いたりすることで、募金が一層身近なものになりました。

「一般募金」「緊急募金」「ユニセフ・カード」などによる協力は、生協ならではの仕組みが生かされています。最初は一人ひとりの組合員さんの呼びかけで始まった募金活動が、現在ではチャリティ形式のバザーやコンサート、学習会、ラブウォークなど、多岐にわたっています。

生協には「よりよい生活と平和のために」というスローガンがあります。ユニセフへの協力は、生協の理念とユニセフの「命の尊厳を守る」という目標が、共通のものとして組合員さんに受け入れられてきました。

「世界中の子どもたちにも人間の基本的な権利が保障されるように」と、組合員さんたちの願いと力が集まってユニセフへの支援活動の輪がひろがっています。 <浜崎>

ユニセフのスタッフレポートより

地震後に最初に生まれた赤ちゃん?(インド)

地震発生から1か月たった2月26日に撮影された



この赤ちゃんは、地震が発生した日の午前8時50分に生まれました。「私は叫んでいました。でも周りに誰もいなくて...壁がガタガタ震え、タイルが落ちてきました。気がつくと、この子が産まれていました」...お母さんは、その時の様子を語ります。地面が揺れる中、赤ちゃんが産まれる直前に勇敢にも家の中に入ってきた助産婦さんがとりあげてくれたのです。助産婦さんは、地震以後40人の赤ちゃんをとりあげています。

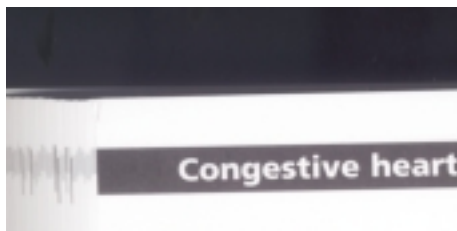
災害を乗り越える前向きな人々(エルサルバドル)

この男の子が座る瓦礫の向こうに見えるのは、家族が持っている畑です。この写真が撮影された2月18日は、ユニセフのモニター(監視)が行われていました。現地の人々がユニセフのチェック内容に基づき、村で予防接種が実施されているかを確認して回りました。

男の子と村の男性たちは、瓦礫の山の中から収穫した綿や農耕具を掘り起こしていました。グジャラート州で救援活動にあたる私たちが一番胸を打たれるのは、この男の子のように、困難な状況でも常に前向きで明るいことです。



家族の畑を背に瓦礫の山に座る男の子



スタディツアー 帰国後の報告



子どもたちとのふれあい

昨年2月、ユニセフのスタディツアーでベトナムを視察し、その後千葉県のたくさんの学校を訪問しました。

「ユニセフのこと、もっと知りたい!」「ベトナムの子どもたちも、算数はぼくたちと同じなんだね!」「私たちよりも、ずっとものを大切にしている」子どもたちの反応はいろいろですが、私の話を聞いて、一人ひとりがそれぞれ何かを感じ取ってちょっぴり成長してくれているようで、とても嬉しく思っています。

生協の交流会では、報告の後、ベトナム料理を食べながらみんなでユニセフのことを語りあいました。「今までユニセフのこと堅苦しく思っていたけど、もっと気軽に考えていけるのね」「ユニセフのお金、こんなふうに使われていること知らなかった。今日子どもに話してあげよう!」そんなやりとりもあり、ユニセフをとおしてあたたかい時間を持つことができました。これからも優しい気持ちを持ち続けたいですね!! <ちばコープ 福本朋子>



子どもたちの感想文

わたしは、ベトナムのお話を聞いて、とてもお勉強になりました。わたしは物を大切に使うように教へば、いいです。お話を聞いて、よくユニセフの金をしました。ベトナムは学校も行かない子どもが多い。だから、聞くことが大切です。ノートには、英語とベトナム語の、いろいろなおもてんろ、5つと、思いました。男の子所は、教室のカードを大切に物、よいもの、でえらびたいと思います。

わたしは、食べ物とをまづにしないようにきをつけています。ベトナムの子どもたちには、いろいろな食べ物、食べさせてあげたいと思います。いちじく、バナナの、こどもに教えてく水、あり、水、の、いしました。

大塚 さん

久保 さん

「藤本さんへ」
栗根アサキ
お元氣ですか？ この前はベトナムのことをいろいろと教えてくれて、ありがとうございました。ベトナムの人々のくらしがよくなりました。食べ物のさ、あまり食べれない子供や、学校へ行くことが出来た子供たちがたくさんいることも分りました。だから給食をのこす子供がたり、水きもたつていらないようにしています。そして、今のきう合の時間には、学校では金庫のせつベトナムの給食をたの活動をしていきます。

私は、いつかベトナムの子供たちと暮らせなうし、か下もあるように、かんではいて、思っています。

ユニセフスタディツアー 報告会の開催を!!

毎年実施しているユニセフスタディツアーには、全国の生協の代表者が参加しています。帰国後は、それぞれが生協の組合員さんや地域の人々へ、ユニセフの報告活動をしています。スタディツアーの参加者は、皆様に伝えたいことがたくさんあります。生協内で過去に参加者がいる場合は、ぜひ積極的に報告活動の場を設けていただきたいと思います。また、生協内に参加者がいないときは、日本ユニセフ協会にご相談ください。現地の様子を知る職員やボランティアを派遣し、出張報告会を開くこともできます。

この件に関するお問い合わせは...

(財)日本ユニセフ協会 協力事業部 担当/藤田絵里
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032

お年玉募金 子どもたちのメッセージ

21世紀最初のお年玉をもらった日本の子どもたち。そのお年玉からユニセフへ寄付して下さった多くの全国の子どもたちから、開発途上国の子どもたちへのさまざまなメッセージが届きました。

～ 世界のおともだちへ ～

ずっとお宝ビンの中で眠っていた1円玉も
こんな役に立つのであればきっと
喜んでくれると思います。

100円で色々な事ができる。そんなことを
おかり「少しでもいいから」ってことで、募金
させていただきました。私が募金したことで、
子ども達が元気になるって、世界中、笑顔
が広がってほしいと思います。

中1. さくら

ベトナムの人とたちより助け、ほごん
ごなかにいきして、はなせをむかえ
先気でいて下さい。

日本はますしい国に比べて
ぜいたくだと思います。
このお金で、人々がたすか
る物を作って
下さい。

どうの人になるべくよくなって
ほしいから

2001 ラオスのみんなへ
1人でも多く 2001学
校に行けるようになりますよう
に! 21世紀7ネ!

2001 ラオスのみんなへ
たくさん 食べて
げんきに なろうよ

2001 ラオスのみんなへ
お金を送るので、
病気になったりしな
いでください。

2001 ラオスのみんなへ
コン川の川岸で 水遊びを
する友達、えかおと手紙にくれた
子達、あのかおと、か忘れられせん
いつまでもええかんぽにネ

ちばコープと京都生協からのメッセージです。

金 募 の 協 生

ちばコープの募金袋

- 心温まるメッセージに感謝! -

ちばコープの募金袋には、募金した方がメッセージを書く欄があるんですよ。毎年お年玉募金を行った後、ユニセフ募金の担当スタッフでそのメッセージを読み込んで、次へつなげていけるようにしています。

自分に子どもが生まれたことで、世界の子どもにも目を向けてくれた若いお母さんからの募金! 戦後ユニセフから実際に援助を受けた方からの、感謝の気持ちがこめられた募金! 子どもたちがお菓子をかうのを少し我慢して、自分のお小遣いから入れてくれた募金!...募金袋はたくさんの方々の優しさでいっぱいです。

今年の袋には、昨年寄せられたメッセージを載せまし

た。イラストも組合員さんに頼んで特別に描いてもらい、100円でできることや、昨年集められた募金の使われ方なども説明しています。また、昨年まで班に1つだった募金袋を、今年は個人に1つずつ配布しました。みんなにユニセフのことをもっと知ってもらいたい! そんな思いをこめて、スタッフで相談しながら作り上げました。

一人ひとりに袋が届いたことで、多くの方がユニセフのことを家族で話しあったようです。今年のメッセージからはそんな様子も感じ取ることができました。スタッフも、募金袋を通じて組合員さんと心のキャッチボールができたような、嬉しい気持ちです。

ちばコープは、組合員さんからの優しさいっぱいの募金を、これからも世界の子どもたちに届けていきたいと思っています。 <福本>

組合員さんからのメッセージ

なかなか子どもに恵まれなかった私たちも、2人の女の子を授かり、今までに味わったことのない感動、不安、心配をするようになりました。世界中の親や子どもたちが、不安、心配をしなくてもいい世の中になるといいと祈りつつ...。100円でできることを見てさらにびっくり! 100円均一で余計なものをつい買っては押入にしまったり...そんなムダをもうしないように決心して、2人の子どもの分。

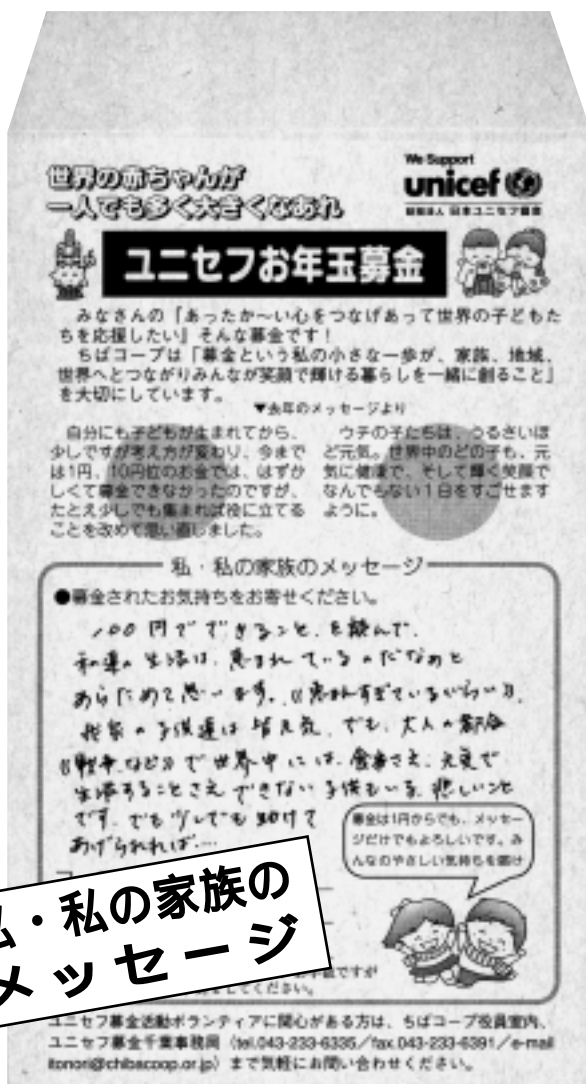
「ちりも積もれば山となる」という言葉がありますが、私も生協さんを通じ、「ちり」の一つにさせていただくことに感謝いたします。そして一日も早く、一人でも多くの子どもたちが幸福でいられますようお祈りいたします。

昨年、自分にも子どもができました。私たちは豊かな国に生まれ、何も不自由のない生活を送っています。でも、もしかしたら自分だって毎日のご飯を心配しなければいけなかったかもしれません。自分が子どもを産んでわかったこと...生まれてくる子どもは国や親を選べない。そして罪はないんですよね。少しでも悲しむ人が減りますように。

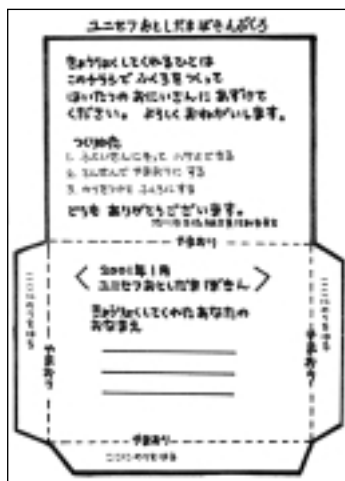
孫が生まれて、命の大切さがわかりました。世界中の子どもたちが幸せになれるように、皆で助けあえたらと思っています。少しでも気持ちをあげてください。

この記事に関するお問い合わせは...

ちばコープ 役員室 担当/永島淳一さん
TEL 043-233-6335 / FAX 043-233-6391



袋 い る い る



山形県生協



岩手県学校生活協同組合



コープぎふ



山形県生協

東葛市民生協の取り組み - 募金袋とOCRとの併用 -

組合員さんの、「生協を通してだったら安心して募金できるわ!」という声を聞くことは、生協としてとても嬉しいことです。東葛市民生協では、そんな声に応じて毎年1月から2月にかけて募金袋を班に一つずつ配り、ユニセフ募金を呼びかけています。また4年前から、注文用紙にユニセフ募金の欄を設け、生協商品を頼むのと同じように、気軽に募金ができるようにしました。

OCR募金は、個人配達の組合員さんから「担当者に会わないので募金を渡せない」という声を受けてスタートしました。募金袋作成に費用がかかるため、袋廃止も検討しましたが、組合員さんから、「自宅にある小銭でユニセフに募金していたのだから、ぜひ袋は続けてほしい!」「班の仲間と少しずつ出しあうのが楽しかつ

たのよ。ユニセフのこと話しながら...」という声があがりました。現在は両方で募金を呼びかけていますが、6対4くらいの割合で、袋での募金額の方が多くなっています。袋による募金は年に1回ですが、災害時の緊急募金は迅速に呼びかけることができるOCR募金で行っています。それぞれの利点を活かしながら、組合員さんとともに、募金方法も考えていきたいと思っています。

今年のエピソードとしては、外貨もOKということをお願いかけましたら、日本円に負けないほどのかなりの外貨が集まり、とてもびっくりしました。 <福本>

この記事に関するお問い合わせは...

東葛市民生協 理事会 事務局 担当/平野正彦さん
TEL 047-364-7473 / FAX 047-365-8348



山形県生協



山形県生協



芸術の都 St.ペテルブルグ

山田ゆきよさん

1997年から3年間、ロシアのSt.ペテルブルグに住み、ロシア歌曲を勉強するかたわら、小説や美術館、雑誌の取材をする。現在も日露を往復している。



旧貴族の館で開かれたコンサート、左が山田さん

わずか300年の歴史しか持たない町、St.ペテルブルグ（ロシア人は、「ピーテル」と愛称で呼んでいます）。ピョートル大帝という破天荒な国王により、西洋への窓口としてフィンランド湾の沼地に建設された町です。

地続きとはいえ、西ヨーロッパのような進んだ文化を持たず、「大いなる田舎」と呼ばれていたロシア。ピョートルはイタリアなどから一流の技術者を呼び寄せ、ロシア的ロマンティシズムを取り入れたヨーロッパ風の美しい町を建設し、近代的な国造りの基礎を築きました。

彼の死後何代が続いた女帝により、西洋文化が取り入れられ、バレエ、オペラなどの劇場芸術が華ひらきました。美術館も建てられ、St.ペテルブルグは「芸術の都」

と呼ばれるようになりました。特に第一の功労者は女帝エカテリーナ 世です。彼女は生粋のドイツ人ですが、ピョートルの遺志を一番理解したのは彼女でした。現在のエルミタージュ美術館は、冬の宮殿も含め、最初は彼女の個人美術館でした。

St.ペテルブルグには、膨大な所蔵品を誇るエルミタージュやロシア美術館のほか、大小無数の博物館が点在し、観光客が去った晩秋から早春にかけて、先生に引率された小中高生たちが、学芸員の説明を聞きながら作品を眺めている姿をよく見かけます。土日ともなれば、親や祖父母が子どもや孫を連れてきます。このように、小さいときから美術品や宮殿建築にふれることで、自然に美術



ルイナック（市場）

品への理解と愛着が身についていくのでしょう。

劇場芸術についても同様です。バレエ、オペラ劇場、音楽ホール、ドラマ劇場、人形劇場、サーカスなどが大小無数にあり、10月から6月までほとんど毎日上演され、人を集めています。この国の経済状態を考えると七不思議の一つです。ロシアの人々のバレエ好きは格別で、皆ドレスアップして観にいきます。子どもたちでさえ、男児はネクタイ、女児は美しいドレスに髪飾り。小さなレディが、幕間などにバレリーナ気取りで歩く姿は何とも微笑ましいものです。

オリンピックのとき、スケートリンクで舞うロシアの選手のエレガントさはつとに有名ですが、それは代々培われたこの国の風土が育て上げたもので、理屈で説明できるものではない、ということをつくづく感じます。



ロシアの子どもたち



エリセーエフのお店

ロシアの味の楽しみ方

ピロシキ

一般的な具として肉、キャベツ、リンゴ、キノコ、ポテトがありますが、それぞれ好みの味で調理し、パン生地に包みオープンで焼きます。下の写真は、大勢で切り分けて食べるジャンボな“ピログ”です。



ロシア紅茶

ジャムは中に入れません。森で摘んだ実をジャムにして、食べながらお茶を飲みます。この風景は、年輩者のいる家で見ることができますが、今はもっぱらケーキとお茶です。お茶の入れ方は独特で、濃いお茶をポットに入れておいて、カップに少し注ぎ、熱湯で薄めて飲みます。

< 浜崎 >



ロシアのケーキ（タルト）

KID'S ROOM

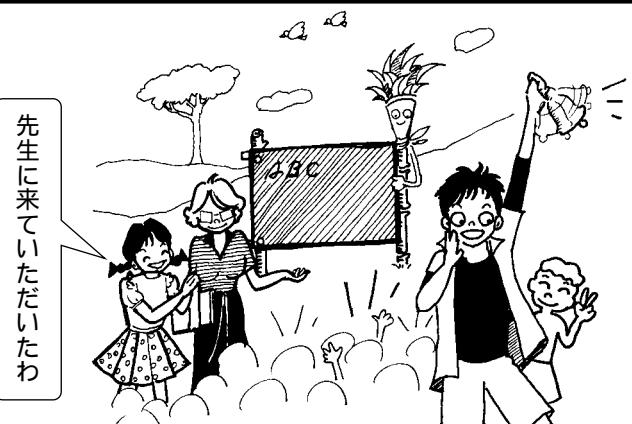


「学校へ行こう!」の巻

開発途上国の中には、子どもは働き手として期待され、学校に通うことさえできないという状態の国が少なくありません。学校に行って勉強できることが『あたりまえ』になっているセンちゃん和プウちゃんは、魔法のほうきポムに連れられて、学校に通えない子どものいる国に着きました。



実はこの村には、
 学校そのものが
 なかったのです。



そしてついに、手作りの青空教室を
 開くことができました

センちゃんとプウちゃんの活躍で、この国でも子どもたちが
 学校に通って勉強ができる、その第一歩を踏み出しました。

センちゃん和プウちゃんが出会った子どもたちには、どんな権利が関係あるのでしょうか...

子どもの権利条約

第28条「教育を受ける権利」

子どもには教育を受ける権利があります。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるという考え方からはずれるものであってはなりません。

第29条「教育の目的」

教育は、子どもが自分のもっているよいところをどんどんのばしていくためのものです。教育によって、子どもが自分も他の人もみんな同じように大切にされるということや、みんなとなかよくすること、みんなの生きている地球の自然の大切さなどを学べるようにしなければなりません。

© UNICEF/Chiara Cartazzo



この村で出会った子どもたちは、毎日水くみや薪拾い、弟や妹の世話に忙しく、学校に行くことができませんでした。世界には、小学校に行くことのできない子どもが、1億1,000万人以上もいます。小学校に行けない理由はさまざまです。家が貧しくて教材を買うお金がなかったり、家の手伝いをして家計を助けなければならなかったり、近くに学校がなく先生もいなかったり、親が学校の大切さを知らず子どもは学校へ通うよりも働く方がよいと考えられていたりするからです。

1人でも多くの子どもたちが学校へいくことができるよう、ユニセフは多方面から支援をしています。

特に貧しい家庭の子どもには、教材(ノートや鉛筆)や学用品などをユニセフが提供します。

学校がない村で、ユニセフは学校を作る手伝いをします。まずは先生を育てることから始めます。隣村から先生を呼んできたり、村で先生をトレーニングしたりします。先生が確保されれば、学校はどこでも開くことができます。例えば、村の集会所などを利用したり、建物がないときは青空教室から始めます。親の理解が得られれば、児童の親が少しずつお金を出しあって、学校を建てるための資金を積み立てることもあります。村の人たちと一緒に学校ができあがります。

子どもの家事の負担を軽くするためのさまざまな支援をします。例えば村の人と協力して井戸を作り、水くみの時間を減らしたり、薪が少なくても使える改良型かまどを普及し、薪運びの時間を減らしたりします。生活に関わりのあることを学校で教えるように支援します。「食事の前には手を洗う」「トイレを使う」など、衛生的な生活の大切さを伝えます。

親に学校の大切さを教え、子どもたちが学校に行けるように、また入学した後に退学することがないようにします。

© UNICEF/Chiara Cartazzo



～ ユニセフ新資料の紹介 ～

「世界子供白書2001」

- 幼い子どものケア - (VHSカラー7分)

毎年、世界中で1億2,900万人の赤ちゃんが生まれています。生まれてから3歳になるまでは赤ちゃんにとってとても重要で、慈しんで育まなければ、社会にとっても大きな損失となります。しかし現実には、その責任を果たせない家庭が少なくないのです。このビデオでは、そのような問題を抱えた家庭の支援の取り組みの例がいくつか挙げられています。



子育てに必要な技術や知識を必要としている人のための、ジャマイカのRFSO(農村家庭支援団体) アルジェリアなどの難民の子どもたちに学習と発達の機会を与えるための、フランスの就学前プログラム

ビデオ貸出のお申し込みは...
ユニセフ視聴覚ライブラリー
TEL 03-5471-7091

算数や国語などの学力を養うための、キューバの全国子ども発達プログラム

安全な環境、健全な家庭、情緒教育のための、南アフリカのヨハネスブルグでのインピロプロジェクト

各国政府がその国の乳幼児に適切な支援をしなければ、その国の将来はないとまで言っています。貧困、暴力、病気の悪循環を続けるのか？ 乳幼児期に最善を尽くし、明るい未来を築くのか？ 私たちの取るべき道について問いかけています。

<岩崎>



© 財団法人日本ユニセフ協会

ユニセフポスター

「21世紀、子どもの笑顔が未来をつくります。」

B2サイズ(52cm×73cm)

イベント、街頭募金、店舗や事務所内の掲示など、広くご活用いただけます。

(10枚まで無料、
11枚以降は1枚30円)



写真セット「地球市民になろう」

B2サイズ(52cm×73cm)

10枚1組のポスターです。テーマにそって解説があり、ユニセフの活動を知るのによい資料です。今年度は「地球市民になろう」をテーマに、貧困、紛争、児童労働などの、さまざまな子どもを取り巻く地球上の問題を考えながら、地球市民として一人ひとりが行動を起こすことの大切さを呼びかけています。

(2セットまで無料、3セット以降は1セットあたり400円)



「地球のともだち～ユニセフワークブック」

A4判/40頁 - 学校向け資料 -

「ユニセフ」から導き出される数々のキーワードをテーマに、地球に色を塗ったり、表やグラフを作成したりなどの作業を通じて、子どもたち自身が世界の問題や自分たちにできることを考え、発見するワークブックです。ひとりでも作業できるほか、参加型活動や「総合的な学習の時間」の補助教材としてもご活用いただけます。世界地図シート2枚入り。

(1部150円)



「総合的な学習の時間とユニセフ」

A4判/32頁

現場の先生方との研究会をもとに、「総合的な学習の時間」におけるユニセフ活用方法をまとめました。ユニセフを活用して設定可能な学習テーマや各授業の流れ、実践事例などを紹介しています。

(1部まで無料、2部以降は 円)



資料のお申し込みは...

(財)日本ユニセフ協会 協力事業部 担当/藤田絵里
TEL 03-5789-2012/FAX 03-5789-2032



UNICEF EVENT ア・ラ・カ・ル・ト

ユニセフのつどいを開催します

今年もユニセフの職員による現地報告会、「ユニセフのつどい」を開催します。全国6か所の生協で開催し、各地で組合員さんによる工夫を凝らした企画で進められます。報告に巡回していただけるのは、ネパールにあるユニセフ南アジア地域事務所に勤務する西嶋礼子さんです。西嶋さんは、南アジア8か国(アフガニスタン、インド、パ

キスタン、ネパール、バングラデシュ、ブータン、モルディブ、スリランカ)のユニセフが行う緊急援助活動に従事されています。1月の大地震後、インド西部にも数回足を運ばれ、現地でのユニセフ活動に関わっておられます。ユニセフの活動について理解を深めるよい機会ですので、ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

実施日	開催生協	問い合わせ		
8月18日(土)	鳥取県生協	企画室	高野須(こうのす)さん	0857-28-7411
8月19日(日)	おかやまコープ	組合員活動部	坂本さん	086-256-2570
8月20日(月)	こうち生協	理事会室	井上さん	088-826-5252
8月21日(火)	移動日			
8月22日(水)	市民生協にいがた	総合企画室	笹川さん	025-284-5860
8月23日(木)	神奈川県生協連		塩飽(しゅあく)さん	045-473-9272
8月24日(金)	めいきん生協	総合企画室	脇さん	052-703-6022



~~~~~

おたより

### スタディーツアーの体験 しゃべりたくて...



インド・ビハール州のバトナ事務所代表とあいさつをする、いわて生協の平和雅(たいらわ)か)さん(写真中央)。  
『ぼむぼむ通信 13号』で、報告会の様子をご紹介します。

帰国後、とても充実した日々を送っています。各地区、学校での報告会は20回を超え、頼まれて行くどころか、自分から「報告会開いて!!」という勢いで、もうしゃべりたくてしゃべりたくて仕方がないくらいです。「20分で報告お願いします」が、気づいたら倍の40分も話していたということも何度か…。その後の進行のあわてたことといったらわかりでしょう。

その中で、中学生と一緒に活動報告会を開いたことがあるのですが、中学生の楽しげな、そして熱心な活動を聞いて、どの方も感動したようです。成人の方々の活動の他にも、そういった中学生、高校生の取り組みを通信に載せるのもいいかなと思っています。

### ヤマハ・チャリティコンサート

今年で26年目となる「ユニセフ・チャリティコンサート」が6月7日、東京・渋谷のBunkamuraオーチャードホールにて開催されました。(財)ヤマハ音楽振興会と(財)日本ユニセフ協会が共催する毎年恒例のコンサートでは、ヤマハ音楽教室の感性豊かな子どもたちが自ら作曲した作品を演奏してくれました。当日は、約2,000名の来場者があり、全国から集まった子どもたちによるピアノやエレクトーンの演奏に大きな拍手がわきおこりました。会場では募金箱を設置し、78,113円のご協力がありました。また都内在住のユニセフボランティアにより、ユニセフカードやグッズの販売コーナーも設置し、大変好評でした。コンサート収益の一部がユニセフを通じて開発途上国の子どもの支援にあてられます。



## 新しいユニセフハウスがOPENしました。



スペースが広くなり、会議室やホールもそろっているので、今まで難しかった団体の受け入れも可能に。修学旅行で「ユニセフについて学習したい」という子どもたちの声にも応えられるようになりました。

2001年6月25日、(財)日本ユニセフ協会の事務所が新宿区大京町より、港区高輪へ移転いたしました。

新しいユニセフハウスは、支援者の皆様が気軽にお立ち寄りいただけるよう1階にはユニセフ・カード&ギフトのお店があり、1、2階をととして世界の子どもたちの現状とユニセフの活動を紹介する展示スペースが備わっています。

JR品川駅より徒歩約8分、品川プリンスホテルのすぐ裏にございます。どうぞ新しいユニセフハウスにご来訪ください。

奥にあるホールは多目的に使えます。セミナー、ワークショップ...。同時通訳用のブースもついている本格的ホール。



新ユニセフハウス自体が、開放性を持った、自由な空間作りができる設計。もちろん、バリアフリーで、障害者の方でも自由に動き回れるようにデザインされています。

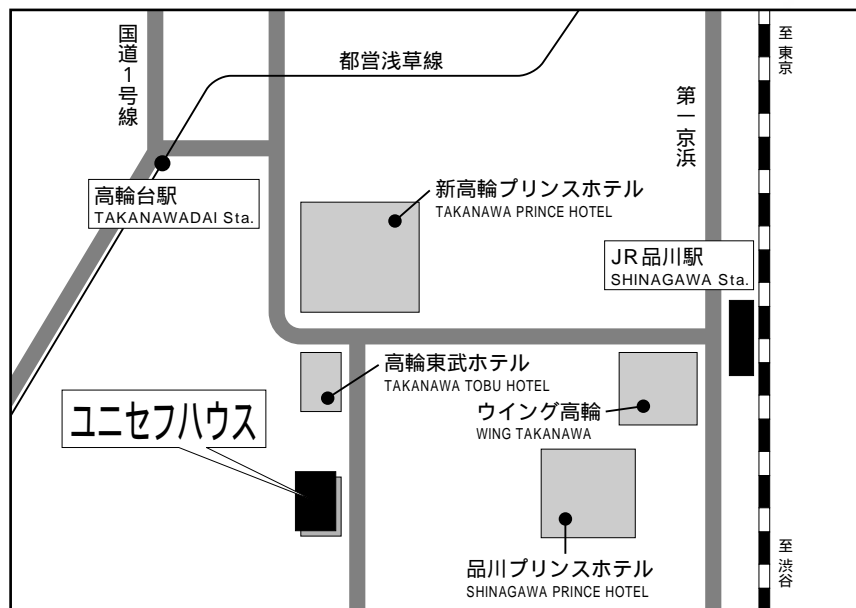
財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部

〒108-8607

東京都港区高輪4-6-12

TEL 03-5789-2012

FAX 03-5789-2032



ユニセフ\*コープ ネットワーク

**ぼむ・ぼむ通信**

No.14-15 [合併号] 2001年7月1日発行

編集 **グループ ぼむ・ぼむ**

(生協組合員ボランティア)  
スタッフ・編集/岩橋・尾澤・浜崎・福本・  
藤森・松本・山本・藤田  
イラスト/鮎沢

発行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部  
〒108-8607

東京都港区高輪4-6-12

T E L 03-5789-2012

F A X 03-5789-2032

ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

### 編集後記

さわやかな風とまぶしい日差しを受けて、若葉がきらきらと茂っています。濃い緑や浅い緑、葉の形、樹の形、一つとして同じものはありません。私たち一人ひとりの個性にも似て、葉っぱ一枚にもいとわしさが感じられます。芽吹くいのち、育ついのちの大切さを思わずにはいられません。(藤森)

今年も水戸・千波湖で開催されたユニセフ・ラブウォークに参加しました。湖畔の水鳥は子育てまっ最中で、うぶ毛のヒナたちは人間を恐れる様子もな

く、一行を楽しませてくれました。いつになく小・中学生の姿が目立ち、「ユニセフ」の広がりを感じた一日でした。(浜崎)

ぼむぼむNo.14・15合併号は、これまでで最大ページ数(16頁)です。事務所の移転時期ともちょうど重なり、すべてが新しく変わっていく気分です。日本ユニセフ協会のホームページも7月1日から内容を一新し、よりわかりやすく「ユニセフ」のことを伝えられるよう工夫をしています。(藤田)